

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70

静岡県総合社会福祉会館内

TEL. 054-653-2311 FAX. 054-653-2312

E-mail: sizurosi@vesta.ocn.ne.jp

<http://www.shizu-roshikyo.jp/>

しづ老人施協

卷頭言

静岡県の高齢者福祉の推進



静岡県健康福祉部
福祉長寿局長
高橋 邦典

静岡県老人福祉施設協議会の皆様には、本県の高齢者福祉行政の推進に当たり、格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、介護保険制度が創設されてから15年、この間、本県においても高齢化が一層進行し、65歳以上の高齢者は、昨年初めて100万人を超えるました。いわゆる「団塊の世代」の方々が65歳以上となったことが大きな要因です。また、高齢化率は26.8%に達し、県民の4人に1人以上が65歳以上となりました。高齢者の48%は75歳以上の後期高齢者が占めており、高齢者の中の高齢化も進行しています。

このように超高齢社会の進行に伴って、一人暮らし高齢者や認知症高齢者の増加、介護人材の不足など、多くの課題に直面しています。

このため、先般の介護保険制度改革では、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けられるよう、医療、介護、予防、住まい及び生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築の実現を目指すものとなっています。

具体的には、生活支援サービスの充実や、医療と介護の連携、認知症施策の推進のほか、予防給付のうち訪問介護、通所介護を市町村事業に移行するなど地域支援事業を充実するものです。

一方、介護費用の増大や保険料の上昇が見込まれる中、介護保険制度の持続可能性を高めるため、利用者の1割負担について、一定以上の所得者を2割負担に引き上げる費用負担の見直しや、特別養護老人ホームの入所対象者を要介護1以上から原則3以上とするな

ど、大きな改正が行われました。

また、介護報酬の改定についても、地域包括ケアシステムの構築を進めるため、中重度や認知症の方への対応強化や介護人材の確保などを加算に反映させる一方で、改定率は全体としてマイナス2.27%となり、事業者の皆様にとっては厳しい内容となりました。

本県では、昨年3月に「ふじのくに長寿社会安心プラン」を策定し、介護サービスの充実や介護人材の確保対策を始め、総合的な認知症対策やふじのくに型福祉サービスの推進のほか、生きがいづくり活動の支援などに取組み、高齢者が元気に生きがいを持って、必要なときに質の高いサービスを受け、自分らしく暮らせる県づくりを目指し、様々な事業を展開してまいります。

特に、介護人材の確保は喫緊の課題であり、介護事業所への就業を促進するため、老施協の皆様に多大な御協力をいただき、若手介護職員に「介護の未来ナビゲーター」として介護の魅力を情報発信していただいているほか、昨年9月に開催した第4回「ふじのくにケアフェスタ」も一万二千人を超える来場者を得て盛況に実施できました。このほか、夏休み親子施設見学や小中学校への出前授業を通して介護の仕事のイメージアップに努めています。

また、介護職員が長く働き続け、賃金を向上させることを目的に、キャリアパス制度の導入を支援しており、その一環として、『介護事業所キャリアパス制度導入ガイド』を作成し、実地指導等の機会を通じて各事業所に配布しています。

さらに、災害時の事業継続計画（BCP）の作成支援ツールを老施協の皆様にも御協力をいただいて作成し、お手元にお届けすることができました。

国では、一億総活躍社会の実現に向けて「介護離職ゼロ」を掲げ、在宅・施設サービスの整備の充実、介護人材の確保を重点的取組に位置付けています。これらは、2025年までの10年の前半を目途に取り組むことになりますが、老施協並びに会員の皆様の御協力が必要不可欠です。社会福祉法人改革も予定されている中、会員の皆様の使命は、今後もますます重要性を増すものと考えておりますので、引き続き御支援、御協力をお願いいたします。

特集 1

「介護の日」イベントに参加して

特別養護老人ホーム「炉暖の郷」施設長 後藤政美

11月11日「介護の日」は介護について理解と認識を深める目的で啓発活動を重点的に実施するための日であります。

今年も県老施協東部支部（支部長木下朝子玉沢昭寿園長）では、様々なイベントを開催しました。

毎年恒例のJR三島駅北口での街頭啓発活動では、県老施協石川会長はじめ東部支部会員、介護福祉社会の皆さん総勢約60名によりキャンペーングッズを配布して、一般市民、学生、旅行者等へのPR活動を行いました。



また、沼津市特別養護老人ホーム連絡協議会の主催の「介護の日特別イベント」として11月14日、プラサヴェルデ医師の石飛幸三氏による「平穏死という言葉の意味」と題した講演会、盲目のシンガーソングライター大石亜矢子氏によるピアノ弾き語りコンサートを開催しました。会場には一般市民・介護施設関係者等、多数の来場者がつめかけ、終了後には「大変感激しました。」「平穏死=自然に苦痛なく最期を迎えるとの意味が理解でき、とても参考になりました。」など大きな反響をいただきました。

このほかにも、下田市、西伊豆町の介護施設主催の地域住民や家族との交流会など多くの記念イベントが開催され介護への理解と認識を深める機会となったものを感じております。

しかしながら、介護、福祉全般についての県民の理解度はまだ低いのではと感じることが多々あります。

昨年、全国経営協が実施した「全国生活者1万人意識調査」によると社会福祉法人に対して国民の皆様が

どのようなイメージを抱き、評価・理解をしているかの問い合わせて、社会福祉法人の制度、役割や組織特性などを理解しているのは国民全体の2割に過ぎず、多くの人が知らないという結果がありました。

各市町村の高齢者福祉事業・介護保険事業の方向性や取り組み内容など福祉施策の基本を定めた「市町村福祉・介護計画」についても、市町村の広報誌・ホームページなどで紹介されていますが、一般市民がどの程度理解したか甚だ疑問であります。

こうしたことから、われわれ介護に携わる者として、行政ばかりに頼るのでなく、機会があるごとに介護・福祉・特に介護施設の役割等について一般市民に理解していただくための広報活動を日頃から積極的に展開していく必要があると感じております。

先日、全国老施協第8回介護作文・フォトコンテスト作文部門の最優秀賞受賞作品「1歳の介護士は3代目」の作文を拝読し、介護について深く考えさせられました。

作文内容は、若い家庭に介護が必要になった妻の父親を呼び寄せ、2年後に妻が妊娠、長男その後次男・三男が生まれ、介護と子育てをダブルケアするものであります。

特に1歳になったばかりの長男が車椅子を押そうとしたり、食事介助の手伝いをしたり、まだ言葉が話せない小さな子が表情でおじいちゃんと会話をしている姿を見て、気持ち的な介護負担が軽減され、楽しい日々を送られたとのことです。

実にほのほのとした情景が目に浮かび、温かさが伝わる筋書きに、これから介護の啓発活動に活かすヒントがあるように思われます。

介護を職業とする集団以外の方々の意見に耳を傾け、地域コミュニティ・地域自治会・地区社協・シニアクラブ等の行事に施設役職員が積極的に参加し、一緒に楽しく活動していく中で、介護について話し、相談に乗り、情報を集めて活動に生かしていく。地道で時間がかかる仕事と思われるが、楽しくのんびりやるものも一案かな。



特集 2

防災訓練の必要性

特別養護老人ホーム「山崎園」施設長 竹村信治

毎年9月1日に行う総合防災訓練は、大正12年9月1日の11時58分に発生した関東大震災の教訓を下に、地震に対する訓練を積むことで少しでも被害を少なくすることを目的に行われるようになりました。東海地震が来ると言われて早40年、山崎園も地震に備えて1年に1回以上の総合防災訓練を続けてきました。備えあれば憂いなしと言われてますように、常日頃から準備をしっかりしていれば、突然何があっても心配することはないので、やはり繰り返しの訓練は大切と思っています。特に夜間に大きな地震が発生した場合は、停電となり真っ暗な状態で避難しなければならぬので恐怖と混乱で職員は動くことができないのではないかでしょうか。

山崎園全体の夜間帯人員は、入居者およそ140人に対して夜勤職員と宿直者の8人で避難誘導をすぐに始めなければなりません。大地震が発生した場合は、2階の方は全員フロアの中心部に集まり、火災が発生した場合は、火点から出来る限り遠くのベランダに避難するようになっています。そして、1階の方の避難方法は地震が発生した場合、基本的に建物内に留まり揺れが収まるのを待ち、火災が発生



した場合は、非常口から安全な方角に避難します。いずれも瞬時に判断して素早い行動が求められますので繰り返しの訓練が必要になってきます。

非常時には、多くの人はなかなか冷静な行動が取れないものです。また、大規模な地震が発生した場合、直ぐには救急隊が来てくれる状態ではないと思われます。阪神・淡路大震災や東日本大震災の時、被災者を救助したのは家族であったり近所の人達であったと聞いています。私達も如何に日頃の「近所付き合い」が重要で、周りの人たちの協力が重要かを認識しています。



参考に、自分の住んでいる地域の震度分布や津波の浸水、液状化の可能性等を調べる「静岡県統合基盤地理情報システム」(GIS)が静岡県のホームページにアップされていますので一度調べておくとよろしいかと思います。自分が住んでいる・働いている地域の被害想定を頭の中に入れておくことが大切かと思います。多くの要介護者が生活する施設としては、避難訓練の重要性を感じて毎月の訓練に一生懸命取り組んでいます。

新加入施設紹介

平成28年1月現在

特別養護老人ホーム みなみふつ かまち 南二日町

法人名 社会福祉法人 華翔会
開設日 平成27年7月1日
(入会申込 平成27年9月25日)
施設長 小池 昌子
所在地 三島市南二日町5-41
TEL 055 (983) 1200
入所定員 80名 デイ25名 短期20名



新人職員紹介

どうぞよろしくお願ひします

玉沢昭寿園

(三島市)

- ① 柳 貴雄・介護職
- ② 初めての後輩さんが、同じ先生の講習を受けて介護職に就いたと知ったこと
- ③ 内村光良(お笑いタレント・ウッチャンナンチャン)
- ④ 銀座・三越で、値札を見ずに買い物をする
- ⑤ 利用者様と職員が一致団結しているような職場にしたい



高麗

(焼津市)

- ① 酒井善弘・介護職
- ② 子供の頃から応援しているジュピロ磐田がJ1に昇格したこと
- ③ 統率力を持った長谷部誠(サッカー選手)、熱い心の松岡修造
- ④ 海外旅行(世界一周)
- ⑤ お客様も職員も幸せを感じる笑顔があふれる施設



三幸の園

(浜松市)

- ① 加藤絢乃・介護職
- ② ショートステイ利用者様に名前と顔を覚えて頂いたこと
- ③ お笑い芸人
- ④ 両親にいつも出来ないお礼をして残りは旅行する
- ⑤ 三幸の園なら大丈夫と安心して利用頂ける施設



いちごの里

(伊豆の国市)

- ① 中村彩香・介護職
- ② 部屋の模様替え
- ③ 三代目J Soul Brothers
- ④ 彼氏と京都旅行
- ⑤ 介護職員の魅力を伝えてていきたい



きらら藤枝

(藤枝市)

- ① 大石江里・介護職
- ② 子供が「お母さん頑張ってるね!」と言ってくれたこと
- ③ 三代目J Soul Brothersの登坂広臣
- ④ 子供と一緒に鉄道旅行
- ⑤ 笑顔が絶えない明るい職場



くにやす苑

(掛川市)

- ① 佐藤真成・介護職
- ② 旅行に行った事
- ③ 宮本常一 梅佳代
- ④ 日々、少しづつ使う
- ⑤ 利用者・職員共に楽しんで過ごせる施設にしたい



各施設の新人職員にお聞きしました。

- Q ① 氏名・職種 ② 最近あったうれしいことは ③ 好きなタレント、スポーツ選手
 ④ もし宝くじで1億円当ったら何に使うか ⑤ 今後どんな施設(職場)にしていきたいですか



施設名称の由来と想い

地域に根付け「梅香の里」

特別養護老人ホーム 梅香の里

施設長 花木君子

「梅香の里」は磐田市北部の豊岡地区に位置します。山に囲まれ、静かな落ち着いた景観の中にたたずむ施設です。西側には天竜川が流れ、南側には新東名が通っています。

地元の観光としては「獅子ヶ鼻公園」や「豊岡梅園」などがあります。交通としては天竜浜名湖鉄道が通っていて、豊岡地区には「敷地駅・豊岡駅・上野部駅」の3駅があります。2月には梅園、4月には天竜浜名湖線を利用してのお花見ウォーキングがおススメです。

そんな自然豊かな地域にある「梅香の里」の名称の由来になりますが、法人で4番目の設立ということで今までに施設名に地名を入れた施設もありました。「梅香の里」のときも地名を入れようかという意見もありましたが、今回は職員から名称を募集してみようということになり法人内職員から施設名を募りました。集まった名称を開設準備室で絞りこみを行い次に法人内の経営会議で審議し最終法人役員会で承認をいただき決定しました。

地域に根付き、地域に愛される施設になれるようにという想いをこめて「『梅』の香る里」で「梅香の里」が誕生しました。

地域との交流ができるようにと施設内には喫茶店や足湯などの設備を備えています。足湯の名前は「梅の湯」です。また、開設当初から動物とのふれあいを思い、



施設で小型犬を飼っています。梅子（ウメコ）といい、施設犬長としてご入居者の癒し、職員の癒し、来客者の癒しのお役目をはたしてくれています。

梅園の話にもどりますが、豊岡梅園は梅酒用の梅を生産する目的でおおよそ4万坪の敷地に白梅を中心に梅が植えられています。開花時期になると一般公開しています。梅園へお立ち寄りの際には「梅香の里」にも是非お寄りください。「梅の湯」と「梅子」が皆様を温かくお出迎えさせていただきます。ローカル線天竜浜名湖鉄道のご利用ものどかな旅が満喫できるかと思います。



●施設のユニーク行事●

輝いていたあの頃を思い出して 「居酒屋 箬作り 伝統の祭り」を楽しむ

特別養護老人ホーム 浜石の郷

施設長 福原範子

施設に入居されると、それまで楽しみだった居酒屋通い、仲間と楽しんだ趣味活動、生まれ育った地域の祭りなどへ出掛ける機会は少なくなります。

施設に居ても、昔から好きだったことを再び楽しんでいただけるように、「居酒屋 浜ちゃん」を開店しました。場所は施設内にある、駿河湾を一望できるラウンジです。営業日時は毎月1回で16:30~18:00。お店のスタッフは笑顔のかわいい古ママさん、貴禄十分なちいママさん、他にも今が旬の素敵な女性群。おつまみは地物が多く、まずは桜えび、しらす、地魚の刺身。他には季節に合わせて枝豆、ゆで落花生、冷奴、湯豆腐など、入居者好みに合わせてetcetera。お飲み物はビール、焼酎、日本酒、ワインなど。雰囲気だけ味わいたい方はノンアルコールで楽しめます。夏はビアガーデンも開きました。現在は男性限定となっていますが、今後は女性限定の営業も予定しています。

寡黙にお酒やおつまみの味を楽しむ方、男同士で語らう方々、もてなし上手なスタッフとの会話を楽しみ



にされる方など、目的は様々ですが皆さん現役時代の顔に戻り輝いています。この行事を始める前は健康面やその後の介護面などのリスクについて心配もありましたが、入居者は至福のひと時を楽しみにされ、夜間の安眠につながっているようです。職員と入居者がゆったりと触れ合えるひと時となっています。

今回は紹介できませんが、この他にも紙ひもを使った籠作りを月2回のペースで、地域のボランティアさんを講師に迎えて実施しています。また、1月2日には県指定民族無形文化財である「お太鼓祭り」の出張披露があります。太鼓を担いだ男衆が、貴重な伝統芸能を入居者の目前で見せてくれます。地元で生まれ育った入居者が太鼓をたたく姿には、職員も感動し目を潤ませています。



シリーズリレーコラム

「県外視察研修会」(国際福祉機器展)に参加して

県老施協主幹 倉島克美

逆ピラミッド型の巨大な門構えの東京ビッグサイトに着いたのは、寒露の少々肌寒い10月8日の午前10時でした。

21世紀委員会主催の県外視察研修会（第42回国際福祉機器展）に事務局員として参加させていただいた。

まず驚いたことは、来場者の多いこと、新交通「ゆりかもめ」の国際展示場正門駅から会場まで長蛇の列、人人人・・・。

後でネットで調べたところ、同機器展は昨年3日間で約12万8千人、県内で言えば「せせらぎの街」の三島市民が3日間で来た計算です。

14カ国、520社の出展ブースを廻って感じたことは、小さなコップ・スプーン等の食事用品から住宅関連・福祉車両など福祉関連製品の種類の豊富さ、機能性の高さもさることながら、各出展企業の期待度の大きさです。

実に熱意、やる気に満ち溢れた創意工夫を凝らしたプレゼンをしていて、8月の高齢者福祉研究大会でお世話になった徳武産業㈱のブースでは、故大島渚監督の献身的な介護を続けられた女優小山明子さんと来場者との記念撮影会（？）で鮓詰め状態でした。

こうした背景には、超少子高齢化社会の進展に伴う福祉関連製品市場の拡大があり、某調査機関の推計で2020年に国内の同製品の市場規模は、約2兆8千億円となり、2013年比で約80%も増加するとの発表がされています。

午後3時半からは、今回一番に見学したかった信州大学の介護ロボット「curara」の橋本教授の講演と着装デモンストレーションに各委員とともに参加しまし

た。

猫の額ほどの特設会場に、参加者約60人で、立見席ができるほどの盛況だ。

着装デモンストレーションでバッテリー切れが発生するハプニングもあったが、いかにもロボットを身につけているという印象で、実用化に一朝一夕とは、いかないのではないかと感じました。

工業用ロボットが自動車の製造ラインのように人の代わりとして反復作業するのに比べて、介護用ロボットは、介護の一部業務（移動・移乗）を介護職員の補助役として働く。

施設職員の1日の業務は、起床介助にはじまり、食事、排泄、入浴等、就寝介助に終わるまで複雑多岐にわたっており、介護ロボットの着装・取り外しなどに時間がかかるてしまうと、逆にこうした1日の介護業務の流れに支障をきたしてしまう。

「詩を作るよりも田を作れ」のたとえではないが、介護施設にとって実利のある介護職員の負担軽減につながるような介護用ロボットの登場に期待したいものです。

手渡されたパンフレットの入った各社ロゴマーク付の特製紙袋を片手に、会場を後にし、新橋行きの「ゆりかもめ」に乗車した時はすでに夕焼け空の午後5時をまわっていました。

今回の県外視察研修を終えて、1見の重さを感じるとともに介護の主人公は、運動能力、言語、コミュニケーション力など多彩な能力と個人存在の尊重（尊厳心）を享有する人間だということを再認識させていただいた。

末筆になりますが、21世紀社会3大潮流のうち「国際化」「情報化」には乗り遅れていますが、「高齢化」行きという名の車両には着実に乗車し、あと半年ほどで高齢者グループに仲間入りする64歳の私あります。

編集部からの一言！

こんにちは！

暖冬とはいえ、いよいよ寒さを感じるところとなりました。

施設職員の皆様方には、いつも、県老施協機関紙の「しづ老施協」をご愛読いただき厚くお礼申し上げます。

早いもので、当誌も平成7年3月創刊号から今回で第45号を数えます。

次回からの編集にあたりましては、3つのポイント（①身近な親しみやすい情報②役に立つ新鮮でタイムリーな情報③わかりやすく読みやすい紙面づくり）を心掛けて掲載内容の充実・強化を図ってまいりますので、今後ともご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

静岡県老人福祉施設協議会企画経営委員長 奥津匡俊



活動報告（予定も含む）

★ 印は予定

【老施協】

★第3回理事会 27年12月9日 平成28年3月任期満了に伴う役員及び委員の改選（案）

監事意見への対応について協議

防災訓練、介護の日街頭啓発活動報告等

☆第4回理事会 28年3月8日

役員及び委員の支部推薦状況、新役員の選任案、新委員の決定

☆第5回理事会 28年3月24日

現役員、新役員（予定者）の顔合わせ、定例総会運営・進行の確認

☆平成27年度定例総会 28年3月24日

役員の選任（次期会長の選出）、平成28年度事業計画（案）、一般会計収支予算（案）について

【企画経営委員会】

★27年11月16日 「しづ老施協」の編集、企画の協議

次年度以降の「しづ老施協」の充実について

【研修委員会】

★27年12月24日 職員研修会「高齢者施設における水分補給、栄養補給と防災備蓄」

* 講師 大塚製薬(株)職員

★28年1月25日 職員研修会「平穏死という言葉が生まれたわけ」 * 講師 医師 石飛幸三氏

【21世紀委員会】

★27年11月6日 講演・ディスカッション等

講演「社会福祉法人における法人経営と地域貢献」

* 講師 社会福祉法人美芳会 大塚理事長

★27年12月8日 第1回「介護魅力倍増セミナー」

内容 介護職員の人材確保のためのセミナー

場所 浜松医療福祉専門学校

☆第2回開催予定 2月6日（土）AM 場所 浜松中央長上苑

☆28年2月24日 メンタルケア研修 A01 7階

* 講師 石井利幸氏

(社) 心療対話士協会 理事長

【高齢者福祉研究大会実行委員会】

★27年11月27日 第3回実行委員会

第7回大会の結果概要、第8回大会の開催企画案等

☆28年2月8日 第4回実行委員会 シズウェル5階 音楽室

【特養委員会】

★28年1月25日 職員研修会「平穏死という言葉が生まれたわけ」 * 講師 医師 石飛幸三氏

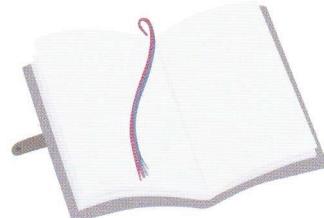
『研修委員会との共催』

【在宅委員会】

★28年1月18日 職員研修会「地域包括ケアシステムにおける在宅福祉サービスの役割」

* 講師 NPO全国高齢者ケア研究会委員長

泉田 照雄氏



編集後記

介護報酬改定による効果の検証・調査研究と称してさまざまなアンケートが届いています。次期介護保険制度の改正及び介護報酬の改定に必要な基礎資料を得ることを目的に実施することには十分に理解できますが、もう少し簡潔に答えられる内容にできないものでしょうか。しかも、同じようなアンケートが重なってきますので慌てて提出したものが多くありました。

(竹村)

ケアハウスはるかぜがある浮島地区では地域起こしを兼ねて他の地域に先駆けて「ゆるキャラ」の公募し図柄を発表しました。名前は浮島の「うきすうー」と名付けられました。当施設では「うきすうー」が地域に定着するようにユニホームの袖にプリントさせていただき、納涼祭やみはる祭りなど行事のたびに紹介させていただいている。図柄等は次の機会がありましたらご紹介させていただきます。

(山下)

先日、中学生の娘が作文に「幸せに生活する為に福祉が必要です。福祉という言葉の意味は、幸せの土台という意味です。」と書いていたのを見て、なるほどと思いました。福祉に携わる者として、地味でも間違ひなく社会の役に立っていると胸を張り、無くてはならない存在であるとの誇りを持て仕事をしたいと改めて感じました。

(佐山)